

価値創造の軌跡

創業者・大原孫三郎と第二代社長・大原總一郎は、技術革新による事業の発展に努める一方、環境問題への対応を含む企業の社会的責任を重視し、事業活動を通じた社会的課題の解決に注力しました。CSRという言葉がなかった時代に経営者たちが持っていた先駆的な精神は、クラレグループのDNAとして現在に受け継がれています。私たちの独創性の高い製品は社会に新たな価値を提供し、世界で広く活用されています。



初代社長
大原孫三郎

社会から得た財はすべて社会に返す

企業の社会的責任を重視し、大原社会問題研究所、労働環境の改善・改革に取り組む倉敷労働科学研究所(現・大原記念労働科学研究所)、倉紡中央病院(現・倉敷中央病院)、大原美術館などを設立。地域の医療・福祉や教育・文化、人々の生活水準の向上に貢献しました。



第二代社長
大原總一郎

企業が得るべき利潤は、技術革新による利潤、社会的、国民経済的貢献に対する対価としての利潤に限る

公害という言葉がまだ珍しかった時代にいち早く企業の排出責任に言及したほか、1950年には独自技術による国産初の合成繊維ビニロンを世界に先駆けて事業化しました。その後も、天然皮革に代わる世界初の人工皮革〈クラリーノ〉を開発・事業化するなど、事業活動を通じた社会的課題の解決と経済発展に貢献しました。

事業活動を通じた社会的課題の解決・経済発展への貢献の軌跡

時代背景と社会的課題

生活物資の充足・社会インフラ整備

- ・太平洋戦争
- ・重化学工業の発展
- ・高度経済成長期
- ・オイルショック

1926～

生活の利便性・快適性の向上

- ・プラザ合意
- ・通信の自由化、国鉄の民営化
- ・エレクトロニクス産業の隆盛
- ・バブル経済

1980～

社会的課題の解決、経済発展に寄与する事業・製品の紹介

レーヨンの事業化を目指して創立、国産初の合成繊維ビニロンと新事業の創出

1926年、クラレは化学繊維レーヨンの事業化を目的に「倉敷絹織」として岡山県倉敷市に誕生しました。1950年代には国産初の合成繊維ビニロンを世界で初めて事業化し、木綿に代わる合成繊維として生活物資・衣料品の充足に貢献しました。その後も、ポパール樹脂、人工皮革〈クラリーノ〉、EVOH樹脂〈エパール〉、イソプレン、歯科材料など新規事業を相次いで立ち上げました。

合成繊維の高機能化

高強度、耐候性、耐薬品性など、合成繊維が持つ優位性に注目し、事業の多角化を図りました。1983年には健康被害をもたらす危険性があるアスベストの代替として、セメント補強用ビニロンを開発し、欧州の大手建築資材メーカーと長期輸出契約を締結しました。その後も、液晶ポリマー繊維〈ベクトラン〉を開発し、新たに製品群に加えるなど、産業資材事業の総合力強化と市場開拓の加速を図りました。

価値創造の軌跡

	時代背景と社会的課題	社会的課題の解決、経済発展に寄与する事業・製品の紹介
1990～	<p>インターネットの普及・生活様式の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バブル経済の終焉 ・インターネット、携帯電話の普及 ・京都議定書の採択 	<p>通信関連事業の拡大、化学品・樹脂事業の海外展開</p> <p>インターネットや携帯電話の普及に伴い生活様式が変化していく中、通信の高速化に寄与する液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉を開発し、1999年には、パソコンや携帯電話などの電気・電子部品、自動車部品で大きな需要が見込まれる耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉を事業化しました。また、化学品・樹脂事業では高い製品力を背景に海外でも販売を増やし、市場シェアを拡大するとともに、グローバルでの生産体制を構築しました。</p>
2000～	<p>グローバル化・環境意識の高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いざなぎ景気 ・IT企業、ベンチャー企業の隆盛 ・リーマンショック 	<p>環境配慮型製品の展開、M&Aを通じたビニルアセテート関連事業の拡大</p> <p>世界的な環境問題への意識の高まりを受け、加硫ゴムや塩化ビニルの代替品として熱可塑性エラストマー〈セプトン〉の米国生産設備を完成させ、本格稼働を開始しました。また、ビニルアセテート関連事業は、海外M&Aを通じてバリューチェーンの強化および事業規模の拡大を推進しました。これらの施策により、クラレグループの独創的な技術・製品は世界中で広く活用され、海外売上高比率が飛躍的に伸びました。</p>
2010～	<p>持続可能な社会に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界人口70億人を突破 ・パリ協定 ・SDGs国連採択 	<p>自然環境・生活環境に貢献する事業・製品の拡大</p> <p>継続的な海外M&Aやアライアンスを通じて、水と大気の浄化に貢献する活性炭、物流の負荷軽減・フードロス削減に貢献するバイオマス由来のガスバリア材〈PLANTIC〉など、グローバルで自然環境・生活環境に貢献する事業・製品の拡大を図りました。</p>
2020～	<p>変革と挑戦の時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大 ・サーキュラーエコノミーへの移行加速 ・地政学的リスクの顕在化 ・資本コストや株価を意識した経営 	<p>事業ポートフォリオの高度化を目指して</p> <p>「社会・環境価値」「経済的価値」「市場成長性」の3軸に、「ベストオーナー」の観点を加え、事業ポートフォリオの高度化を目指しています。EVOH樹脂〈エバルル〉、水溶性ポパールフィルム、特殊アイオノマーシート〈セントリグラス〉、耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉、歯科材料、活性炭、液晶ポリマー繊維〈ベクトラン〉などの成長・拡大事業や、光学用ポパールフィルム、PVBフィルム〈トロシフォル〉などの基盤事業に重点的に資源配分を行います。</p>
2026	<p>社会的課題の解決を、さらなる成長のエンジンに</p>	